



課題を乗り越え安心で 快適に暮らせる町を目指して

美浜町議会議長

藤本 悟

Fujimoto Satoru

議 会

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様におかれましては、清々しい新春をお迎えられましたことを心からお慶び申し上げます。旧年中は、議会活動に深いご理解と温かいご支援を賜り厚くお礼申し上げます。さて、昨年は町制施行60周年の記念の年であり、7月には待望の舞鶴若狭自動車道が全線開通する等、町が活気づく明るい一年となりました。また、美浜町議会では、「開かれた議会」を目指す取り組みとして、昨年は、「議会と語ろう会」を町内12集落で開催しており、今年度中に全集落で開催できるよう順次計画をしております。

そして、昨年11月には、第9回国原子力発電所立地議会サミットが開催され、「エネルギー政策と原子力発電・フクシマ復興の諸課題と立地自治体の振興」をメインテーマに5つの分科会に分かれ、私と大阪府熊取町議会議長が「原子力発電所立地自治体の地域振興」についての分科会の座長を務めさせていただきました。各地域の立場や意見の異なった議員同士が集い、積極的な意見交換会を行いました。更に、国には立地自治体の苦勞を理解し、そこに住む住民と真摯に向き合い、エネルギー資源の乏しい我が国におけるエネルギー安全保障の観点から、しっかりとしたビジョンを示し、前面に立つて積極的に国民への働きかけを行っていただくことを要望いたしました。



↑美浜町福祉支援センター「あいばる」イメージ図（あくまでも現時点でのイメージですので、今後変更となる場合があります）

「^{うま}美し美浜」の実現に向けて 各種施策に協働で取り組みます

美浜町長

山口 治太郎

Yamaguchi Jitarō

新年明けましておめでとうございます。町民の皆様には、輝かしい新春を御家族お揃いでお迎えのこととお慶び申し上げます。日頃は、町行政の発展につきましてご協力とご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。昨年は、美浜町制施行60周年の記念の年として、2月11日に式典を開催し、1年を通して多くの記念イベント等を開催いたしました。また、7月20日には、町民が待望していた舞鶴若狭自動車道が全線開通し、交流人口の拡大と地域の活性化のためにさまざまな事業を実施いたしました。まちづくりにおいては、「第四次美浜町総合振興計画」の将来像である「美し美浜」の実現に向け、健康づくりと生涯学習をはじめとする各種施策を協働で展開してまいりました。更に、平成27年度で現在の計画が終了するため、本町を取り巻く社会経済情勢の変化や、多様な町民ニーズを踏まえ、平成28年度を初年度とする「第五次美浜町総合振興計画基本構想・基本計画」の策定に向け、引き続き取り組んでまいりたいと考えております。また、町政発展の根幹である人口が減少傾向にある現状を踏まえ、昨年10月に人口減少対策プロジェクトチームを設置し、対策を検討しております。本チームの提案につきましても、次期計画に反映してまいります。

健康づくりについては、「げんげん運動」を更に推進し、親子の生活習慣病予防を重点課題として充実に図ってまいります。生涯学習については、「なびあす」を拠点に、文化芸術による感動の提供、更には各種講座、趣味の活動を通じた生きがいづくりを協働で推進してまいります。また、平成30年の第73回国民体育大会開催に向け、昨年12月に町の準備委員会を設立し、平成27年度中に実行委員会を発足して準備を進めてまいります。更に、ポルト競技の会場となる福井県立久々子湖ポートコースは、今年度中にコースの改修、平成27年度中に県立ポートハウスの改築を実施いたします。教育環境については、本年4月より、町内小学校7校を町立美浜西小学校、町立美浜中央小学校、町立美浜東小学校の3校に再編し、更なる学校教育の充実に努めてまいります。福祉支援については、昨年から旧図書館跡地に美浜町福祉支援センター「あいばる」の整備を進めており、子どもたちの発達支援サービスと障がい者の生活支援サービスを提供してまいります。産業振興については、町内の農業及び農地を守るため、町の農業の現状を踏まえた農業基本計画を本年度中に策定いたします。観光振興においては、昨年策定いたしました美浜町観光振興計画に基づき、三方五湖ゾーン、敦賀半島西海岸ゾーン、新庄山里ゾーンの施策に取り組んでまいります。また、若者定住化対策として、平成27年度中に新産業団地と

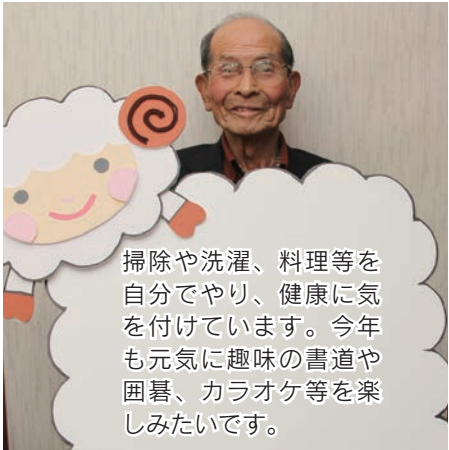
住宅団地を整備し、新たな雇用創出と定住人口の拡大により町の活性化を図ってまいります。

原子力行政については、昨年4月11日に、新しいエネルギー基本計画が閣議決定され、原子力については引き続き活用していくとの方針のもと、原子力発電が「重要なベースロード電源」と位置付けられ、核燃料サイクル政策の推進、また、喫緊の課題である使用済燃料の問題については、国が前面に立つて取り組みを進めることが明記されました。

また、エネルギー教育の推進についても明記されておりますが、私も世界的課題である地球温暖化問題をはじめ、資源が乏しい我が国のエネルギー事情等が国民各層に広く理解されることが極めて重要であると考えております。本町においても、エネルギー環境教育の更なる推進に努めてまいります。

現在、美浜発電所1・2号機は、運転開始から40年を経過しており、本年7月までに運転延長の申請をする必要があります。また、美浜発電所3号機については、新規制基準に適合するための申請が必要ですが、いずれも事業者の判断のもとに行うことであるため、本町では、関西電力㈱に対し、早期に方向性を示すよう求めているところであります。

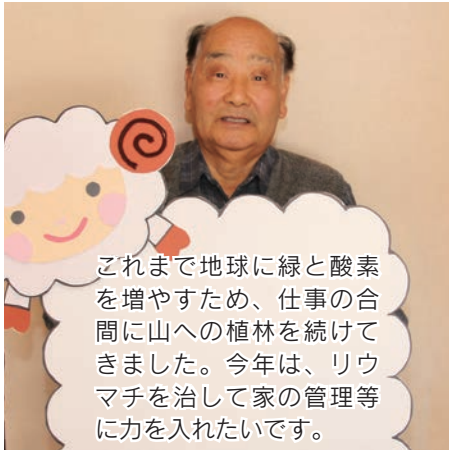
結びに、本年も町行政に対して町民の皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。災害のない良い一年であることを祈念して新年のご挨拶とさせていただきます。



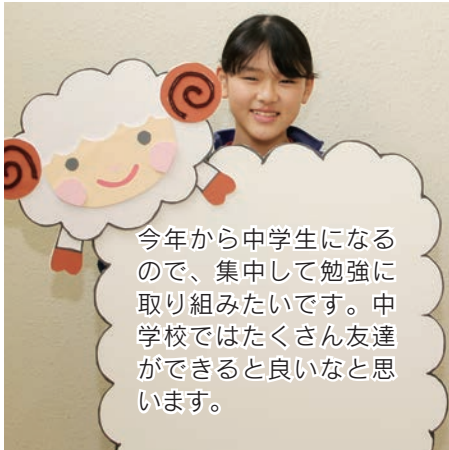
上登野 卯之助 さん(興道寺)



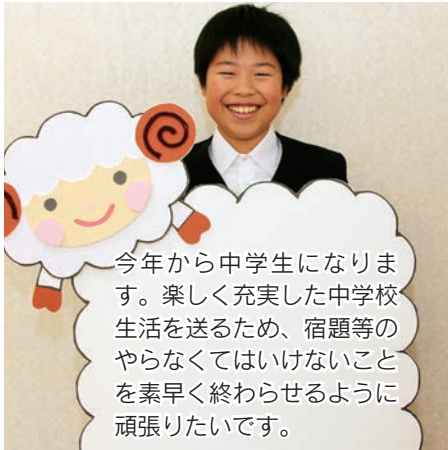
八木 よし子 さん(郷市)



上原 富士雄 さん(佐田)



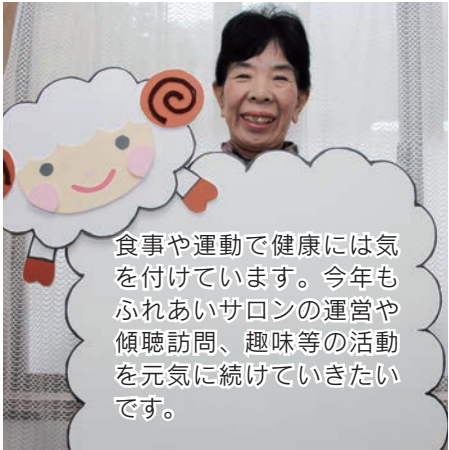
高木 瞳 さん(新庄)



織田 晋丈 さん(笹田)



中村 ひかりさん(金山)



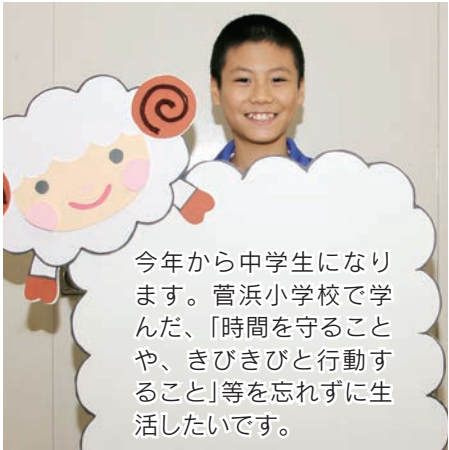
山田 友子 さん(佐柿)



鳥井 博史 さん(北田)



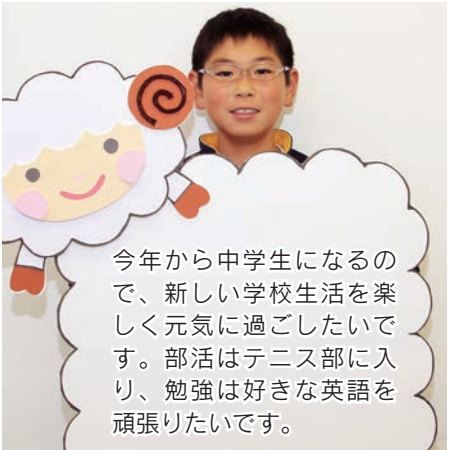
玉井 幸子 さん(早瀬)



吉本 雄翔 さん(菅浜)



江戸 紗奈 さん(木野)



田辺 大輔 さん(坂尻)



杉本 元一 さん(宮代)



原田 弘美 さん(佐野)



志賀 一成 さん(日向)



濱野 愛結 さん(丹生)



川口 梨紗 さん(久々子)



山口 真之介 さん(太田)



寺田 麻美 さん(河原市)



岸下 昂平 さん(新庄)



大同 貞男氏

旭日双光章を受章

1月3日に、長年にわたる農業の振興発展に貢献された功績が称えられ、大同貞男さん（木野）が旭日双光章を受章されました。

大同さんは、昭和49年の美浜中部土地改良区設立と同時に、理事に就任され、これまで副理事長、理事長を歴任されてきました。また、平成8年から6期18年連続で農業委員に任命され、美浜町農業委員会会長を5期務められました。

この間、米価の低迷や担い手不足、農業従事者の高齢化等、農業情勢が



大同 貞男 氏(木野)

変化する中、平成12年度から幹線用水路パイプライン化と水管理システムを導入し、更に効率的な水管理を可能としました。また、水管理コストの低減を図るため、美浜中部地区において、かんがい排水事業に取り組まれる等、町の農業生産基盤や農村環境基盤の整備に尽力されました。

大同さんは「これまで与えられた仕事を一生懸命に行ってきた成果が認められて光栄です。支えていただいた周りの多くの方々に感謝しています」と話されていました。

橘 祥子氏

藍綬褒章を受章

1月3日に、長年にわたる社会福祉の振興発展に貢献された功績が称えられ、橘祥子さん（丹生）が藍綬褒章を受章されました。

橘さんは、平成元年から8期24年連続で民生委員・児童委員に任命され、この間、美浜町民生児童委員協議会会長や福井県民生児童委員協議会理事等を務められました。

この間、障がい者や一人暮らしの高齢者等に対し、孤独感や孤立感を取り除くため、自宅訪問や電話連絡を行う等、安否確認の活動に積極的



橘 祥子 氏(丹生)

に取り組まれてきました。

さらに、高齢者の引きこもり防止や健康づくりのため、町で初となる高齢者が集う場「ふれあいサロン」の運営に取り組まれたほか、集落に出向き未就園児を見守る「ミニさくらんぼ」を運営する等、子育て支援等にも尽力されました。

橘さんは「受章は私一人の力ではなく、長年の活動を支えてくれた周りの皆さんのおかげです」と話されていました。



ル・サロン銅賞受賞記念展の収益金
栗谷正光さんが町に寄付

■ お問い合わせ先
町生涯学習課(担当・島田)
☎32-1212



↑ 山口町長へ寄付金を手渡す栗谷正光さん（右）

1月17日に、栗谷正光さん（佐柿・徳賞寺住職）が、美浜町に12万円を寄付されました。

栗谷さんは、「大雲道人」の名で水墨画家として活動されており、一昨年フランスの国際公募美術展「ル・サロン」において、「達磨図 色即是空」で銅賞を受賞されました。

今回の寄付は、11月2日に開催したみはまナビフェス

2014において「大雲道人ル・サロン銅賞受賞記念展」と題した作品展示及びギャラリートークを開催し、同会場で販売された栗谷さんの作品（色紙と短冊）の売上金を寄付されたものです。

町では、いただいた寄付金を栗谷さんの希望により、福祉に活用するため、12月15日に社会福祉協議会へ贈呈しました。



美浜町と株式会社 NOUMANN(ノーマン)が
工場立地に関する協定を締結

■ お問い合わせ先
町企画政策課(担当・浅妻)
☎32-6701



↑ 協定を交わした山口町長と宮下清哉社長（ダイヤトレンド株式会社）

1月26日に、美浜町と株式会社 NOUMANN(ノーマン)が工場立地に関する協定を締結しました。

今回の協定締結は、町が現在操業休止中の野菜工場施設（大藪）を新たに活用する企業の誘致にあたり、ダイヤトレンド株式会社(電気機器製造販売会社)が自社の技術を農業生産に活かすため、新会社「株式会社 NOUMANN」を設立し、美浜町への進出が決定したことに

同社は、蛍光灯の光で「結球レタス」等を生産する予定で、昼間に比べて低価格の夜間電力を使用する等、低コスト化を図る計画です。

今後は、平成27年12月の本格稼働を目指し、工場内の改修を行います。

山口町長は、「休止中の工場に進出いただきありがたく思っている。企業誘致の大きな一歩となる」と述べました。



←新たに生産を開始する
野菜工場施設（大藪）



子どもたちの発達支援・障がい者の生活支援を提供 「あいぱる」の建設工事が始まります

■ お問い合わせ先
町福祉課(担当・木谷)
☎32-6704



↑ 美浜町福祉支援センター「あいぱる」
・鉄骨造り
・平屋建て
・延床面積 525 ㎡

1 月27日に、美浜町福祉支援センター「あいぱる」の安全祈願祭を旧町立図書館跡地で開催しました。この施設は、「子どもたちの発達支援サービス」と「障がい者の生活支援サービス」を提供する施設として町が整備するものです。施設内には、障がい者用に

寝たまま入浴できる特殊浴槽や、宿泊できる部屋を設けています。また、子どもの育児スペースは、遊戯室をはじめ、指導訓練室、相談室、医務室等を設けています。今後は、建設工事を進めるとともに、利用方法や運営方法等について検討を進めていきます。



第73回国民体育大会 美浜町準備委員会を設立

■ お問い合わせ先
町生涯学習課スポーツ振興室
(担当・野村) ☎32-6709



↑ 121 人の体制で設立された町準備委員会

12 月11日に、第73回国民体育大会美浜町準備委員会設立総会を町役場で開催しました。本総会は、平成30年の国民体育大会開催に向け、10月28日に開催した準備委員会発起人会で承認された準備委員会則案や委員案等をもとに、美浜町において正式に準備委員会を設立するため開催したものです。

本国体において美浜町では、県立久々子湖ポートコースでボート競技を開催するほか、美浜町総合運動公園野球場で軟式野球を県内6市町で共同開催する予定です。発起人の代表である山口町長は、「国体の開催を通して町の活性化につなげたいと思う。大会を成功に導くため、準備委員会を設立し、町民一丸となって取り組みたい」と挨拶しました。その後、準備委員会会則や委員・役員等が議決され、山口町長を会長とする121人の体制により、町準備委員会が設立されました。今後は、平成27年度中に組織を実行委員会に改め、更なる体制強化を図る予定です。



2 年連続 20 回目 美方高等学校駅伝部女子が冬の都大路へ

■ お問い合わせ先
町生涯学習課スポーツ振興室
(担当・志賀) ☎32-6709



↑ 都大路での健闘を誓う美方高等学校駅伝部女子

12 月8日に、女子第26回全国高等学校駅伝競走大会(12月21日開催)に出場する美方高等学校駅伝部女子の激励会が町役場で行われました。同校駅伝部は、11月2日に開催された県高校駅伝競走大会において、2位に3分以上の差をつけ、2年連続20回目の全国大会出場を決めました。

山口町長は、「県代表となっていたいただき、美浜町として誇りに思う。体調に気を付け、都大路での健闘を心から期待している」と激励しました。選手を代表して野原千里さん(松原)は、「本番まで調子を上げていき、都大路では一人ひとりが最高の走りをしてい」と謝辞を述べました。



↑ 選手を代表して謝辞を述べる野原千里さん
(左から2番目)



↑ 山口町長から激励金を受ける堀真浩監督(右)



地域に根差した活動が評価され 菅浜小学校PTAが優良PTA文部科学大臣表彰を受賞

■ お問い合わせ先
町学校教育課(担当・加茂)
☎32-6708



中島 修さん(菅浜小学校PTA会長)

1 月19日に、これまでの地域に根差した優秀な活動を称え、菅浜小学校PTAに優良PTA文部科学大臣表彰が贈られました。同校PTAは、保護者会員10人、教員会員7人、賛助会員3人の計20人で構成されており、地域の方と触れ合う環境づくりや、各種団体と連携して子どもたちを見守る体制づくり等に尽力されてきました。

中島修さんは、「受賞は、先生方や保護者、老人会等、地域全体で子どもたちを温かく見守ってくださる皆さんのおかげです。来年4月から小学校が再編されますが、これからも、地域と子どもたちの繋がりを大切にしていきたいです」と話されていました。

シリーズ「環境にやさしい公共交通を考える」①

環境と公共交通

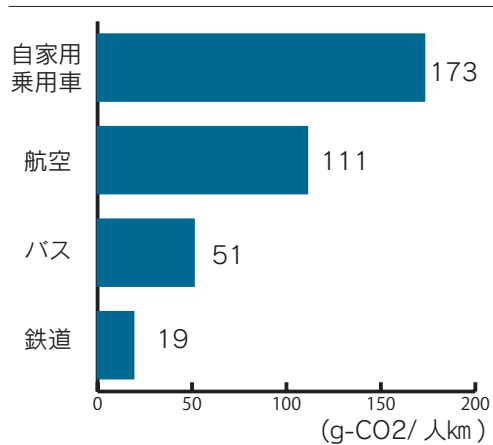
今月号から「環境にやさしい公共交通を考える」と題して、JRやコミュニティバスをはじめとした地域公共交通について、町の取り組みを全3回シリーズでお伝えします。

環境問題の観点から、環境への負荷が少ない公共交通について、皆さんも一緒にお考えください。

公共交通が環境にやさしい理由

※お問い合わせ先
町住民環境課 担当・上野
☎32-6703

人を1km運ぶ際に排出される二酸化炭素の量



環境負荷は、移動に利用する交通手段によって異なります。一人を1km運ぶために出される二酸化炭素排出量は、鉄道の19gを基本とした場合、バスは約2・7倍、航空は約6倍、自家車は約9倍の排出量となります。

環境にやさしい公共交通

環境に負担がかかる便利な乗り物。私たちが、エンジンを使った乗り物で移動する場合、ガソリンや軽油等の燃料が燃やされています。燃料を燃やした場合、二酸化炭素、窒素酸化物、硫黄酸化物等が発生し、大気中に排出されることで、地球温暖化や大気汚染による酸性雨、呼吸器疾患等、深刻な環境問題を引き起こす要因の一つとなります。

地方の交通事情

そのため、移動手段を自家用乗用車から鉄道・バス等の公共交通機関に変えることで、二酸化炭素等の排出量抑制につながり、環境への負荷が軽くなります。

公共交通が環境にやさしいことは理解している、地方の実情としては「車社会」であることは皆さんも御存じのとおりです。福井県は、自家用車の保有台数や一台当たりの自動車平均走行距離が全国平均よりかなり多く、全国トップクラスです。自家用車への依存が進んできた理由は、持ち家率が高く駐車場を確保しやすいことや、共働き率が高いこと等が挙げられます。



↑ JR 小浜線



↑ 美浜町コミュニティバス

身近な公共交通に乗ってみよう。普段車に乗っている方が、旅行以外で公共交通を利用する場合、「自家用車が使えないときに仕方なく」といった理由が多いようです。地方の交通事情から考えると仕方ないことですが、少しでも意識を「環境」に向け、移動の予定とJRやコミュニティバスの時刻表を見比べて、移動手段の選択肢に、公共交通を加えてみてください。町では、現在地域公共交通としてコミュニティバスを運行していますが、より便利なコミュニティバスを目指し、平成27年4月に新コミュニティバスを運行する予定です。詳しくは、次回以降にお知らせします。

美浜発電所の状況



今回の報告では、11月18日から12月17日までの美浜発電所の状況等についてお知らせします。

第185回町原子力環境安全監視委員会を開催しました

11月28日に、町役場で第185回町原子力環境安全監視委員会を開催しました。

今回の委員会では、町から第188回福井県原子力環境安全管理協議会の報告内容及び安定ヨウ素剤の事前配布について説明するとともに、原子力規制庁から新規制基準適合性審査の状況、関西電力(株)から美浜発電所の安全対策の実施状況等、(独)日本原子力研究開発機構から「もんじゅ」の現状について説明を求めました。委員会での主な質疑応答は次のとおりです。

安定ヨウ素剤の事前配布について(美浜町)

問 12月に丹生・竹波・菅浜区で安定ヨウ素剤を事前配布することだが、副作用はあるのか。また、服用により病気になる場合の責任は誰がとるのか。

答 副作用の症例は少なく発疹が多いと聞いているが絶対ではないため、かかりつけ医に相談いただくか、町が開催する住民説明会時に医師等による問診で配布の可否を判断する。なお、

責任の所在については、国が指示を出した場合は国の責任となる。しかし、それ以外の誤飲等は自己責任となる。

新規制基準適合性審査の状況について(原子力規制庁)

問 運転期間延長認可制度(※1)に対応するための申請の基準は、それ以外の(新規制基準適合申請する)プラントよりもハードルが高いのか。

答 運転期間延長認可の申請においては、新規制基準適合申請にあたって、事前に、コンクリートの強度・遮蔽能力の確認や原子炉格納容器の塗膜状況の確認等といった「特別点検」の実施が必要であり、大きなハードルになると言える。

美浜発電所の安全対策の実施状況等について(関西電力(株))

問 美浜(1、2号機)の運転期間延長認可申請の期限はいつか。また、日程を逆算すると、いつまでに(特別点検を実施する)という結論を出さなければならぬのか。

答 申請は、特別点検を実施した上で、平成27年7月8日までに提出しなければいけない。仮に特別点検が3ヶ月程度かかるとした場合、4月には開始しなければならぬが、現在検討中である。できる限り早い段階で説明できるようにしたい。

もんじゅの現状について(独)日本原子力研究開発機構

問 (設備の保守管理等の不備等)緊張感が足りない。トップダウンではなく、ボトムアップでやってほしい。

答 (組織・風土・人の改革により)現場からの意見も取り入れている。今後とも気を引き締めて進めていきたい。本委員会では、今後も国の動向はもとより、美浜発電所及びもんじゅの安全対策等を適宜確認していきます。

(※1)運転期間延長認可制度
発電用原子炉の運転期間を運転開始から40年とし、その満了までに認可を受けた場合には、1回に限り延長することを認める制度。延長期間の上限は20年とし、具体的な延長期間は審査で個別に判断される。



↑ 原子力規制庁の小山田総括調整官から説明を受ける委員